

ドライビングディスタンスの再考察—2015

前書き

2002年5月にR&AとUSGAは「原則の共同声明」を採択しました。この声明の目的は、用具に関する行動の指針となる主要な原則や方針の枠組みと共に、R&AとUSGAの共同見解を発表することでした。その発表以来、R&AとUSGAは進化する用具テクノロジーがゲームをプレーすることに与える影響を注意深く監視することを含め、必要な場合にはその期間を通じて新しい規則を導入してきました。このレポートでは平均スコアの変動は一定であったことに言及しており、世界の主要なゴルフツアーで、個々の2015年シーズン終了時に編集されたドライビングディスタンスに関連するデータの見直しを含んでいます。

このレポートでは、主要なプロフェッショナルゴルフツアーのドライビングディスタンスを観察しています。ここに含まれるのは、利用可能な限り過去に遡ったPGAツアー、ヨーロッパツアー、日本ゴルフツアー、ウェブドットコムツアー、PGAツアーチャンピオンズツアー、LPGAツアー、そしてレディースヨーロッパツアーのデータです。より着目されるのは、PGAツアー（ショットリンクデータがさらなる洞察を提供しています）とヨーロッパツアーに特に焦点を当てた、この後に出てくる2003年からのディスタンス状況です。

平均ドライビングディスタンスは、一般的に各トーナメントの2つのホールで計測され、いくつかのツアーにおいて、そのシーズンを通じて40,000ショット近くが計測されることとなります。ドライビングディスタンスを計測するために使用されるホールでは、ドライビングディスタンスのランキングにかかわらず、PGAツアーでは94%、ヨーロッパツアーでは97%と大半のプレーヤーがドライバーを使用しています。

こうした主要なプロフェッショナルツアーを男女ともに比較すると、PGAツアー、ヨーロッパツアー、ウェブドットコムツアー、そしてチャンピオンズツアーでは2003年から2015年シーズン末までに平均ドライビングディスタンスは約1%増加していることを示しています。この増加はこの期間を通じて毎年約0.2ヤードというゆっくりとしたドライビングディスタンスの「横ばい」に特徴づけられます。日本ゴルフツアー、LPGAツアー、そしてレディースヨーロッパツアーの平均ドライビングディスタンスは、この同じ期間を通じて同じ程度（～1%）減少しました。

2003年以降、シーズンごとの4ヤード以上のドライビングディスタンスのばらつきは珍しいことではありません。ドライビングディスタンスの最も大きな総合的な増加はウェブドットコムツアーで起き、2015年は2003年よりも5ヤード距離が増えました。

ヨーロッパツアーとPGAツアーの最も距離の出る（そして最も距離の出ない）プレーヤーたちの平均ドライビングディスタンスは、シーズンごとの変動を含め、それぞれのツアーの平均ドライビングディスタンスを密接にたどっています。パーセンテージで見ると、ツアー間とシーズン間の両方で良い一貫性があります。最も飛距離の出る上位10名はツアー平均よりも約7%より遠くへ飛ばし、一方で最も飛距離の出ない下位10名はツアー平均よりも約6%より飛ばない傾向があります。

¹R&A/USGAの「原則の共同声明」は2002年5月に採択されました。PGAツアーは用具についての彼らの見解を2003年7月に発表し、用具問題についてR&A/USGAと提携することを公約しました。「原則の共同声明」と「PGAツアーの用具についての見解の要旨」の両方は参照用に添付されています。2003年中期末までにそうした見解が採択された結果として、2003年シーズンは最も高いレベルでのドライビングディスタンスの基準シーズンとして選ばれています。

2015年の平均クラブヘッド速度は113.2mph、平均打ち出し角度は10.8°、平均スピン率は2599rpmでした。クラブヘッド速度の90パーセンタイル値は119.2mphでした。こうした数値は、ボールの距離を規制する標準総合距離（打ち出し角度10°、バックスピン2520rpm、クラブヘッド速度120mph）のテスト条件にとっても近いものです。

背景

「原則の共同声明（2002年5月発行）」の目的は、両団体の用具と用具規制に関する行動の指針となる主要な原則や方針の枠組みと共に、R&A と USGA の共同見解を発表することでした。

先端テクノロジーがもたらすゴルフ用具の進歩を予見することは不可能であるということは歴史が証明してきました。ゴルフが魅力あるものであり続けるために、そうした進歩は明確で広く受け入れられる一連の原則に照らして判断されるということは最も重要です。「原則の共同声明」の採択に際し、一般的にそうした進歩を歓迎するものの、R&A と USGA はゴルフの最良の伝統を守り、プレーヤーの技量よりもテクノロジーの進化に過度に頼りすぎることを防ぐため、そしてプレーヤーの技量がこのゲームを通じての成功の主要な要素であることを確実にするために、用具規則を考察するときには慎重であり続けるように最大限の努力を投じてきました。PGA ツアーは用具についての彼らの見解を 2003年7月に発表し、用具問題について R&A/USGA と提携することを公約しました。「原則の共同声明」と「PGA ツアーの用具についての見解の要旨」の両方は参照用に添付されています。

用具規則を含むゴルフ規則の統轄機関として、R&A ルールズリミテッド（「R&A」）と全米ゴルフ協会（「USGA」）は進化する用具テクノロジーがこのゲームをプレーすることに与える影響を注意深く監視し続けてきました。さらにはその期間を通じて、クラブの性能や寸法についての制限と、ゴルフボールをテストするために用いられるテスト方法がエリートゴルファーたちによって使用されている用具であり、彼らのパフォーマンス（図1と図2）を確実に代表するように、テスト方法の改良を含み、必要な場合には新しい用具規則を導入してきました。

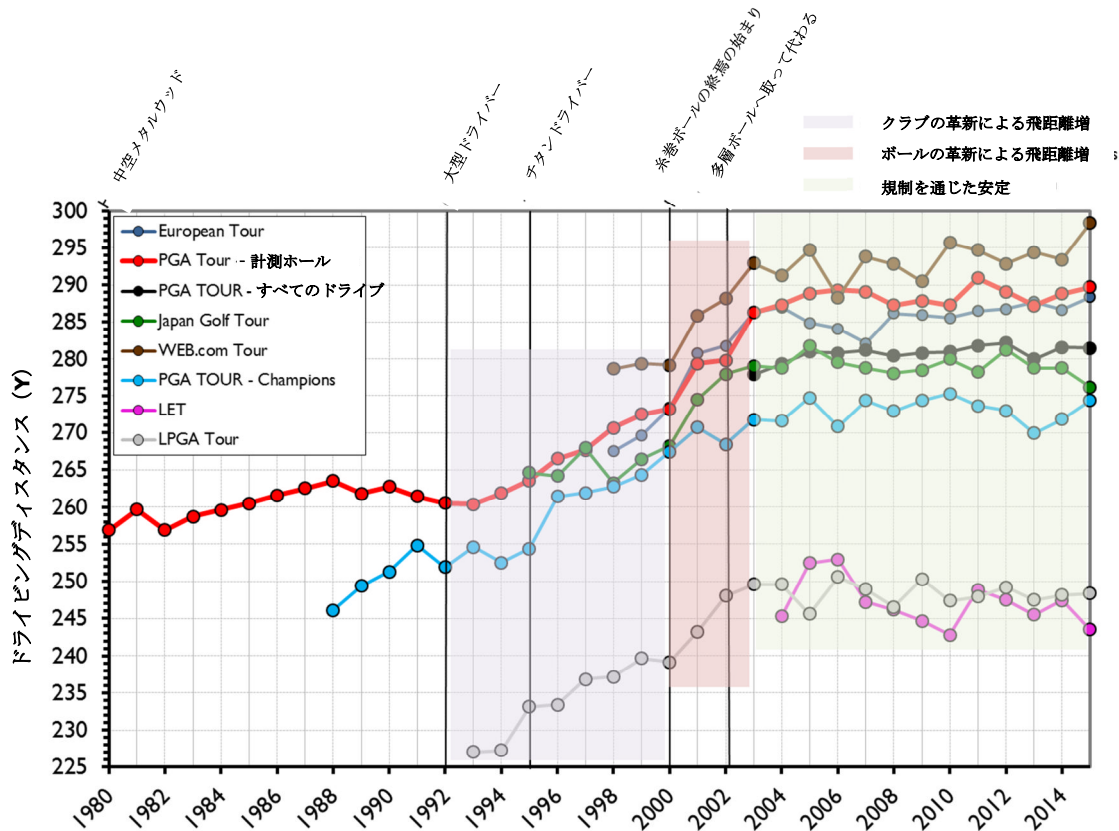


図1 重要な革新の節目を重ねた主要なツアーにおける平均ドライビングディスタンス

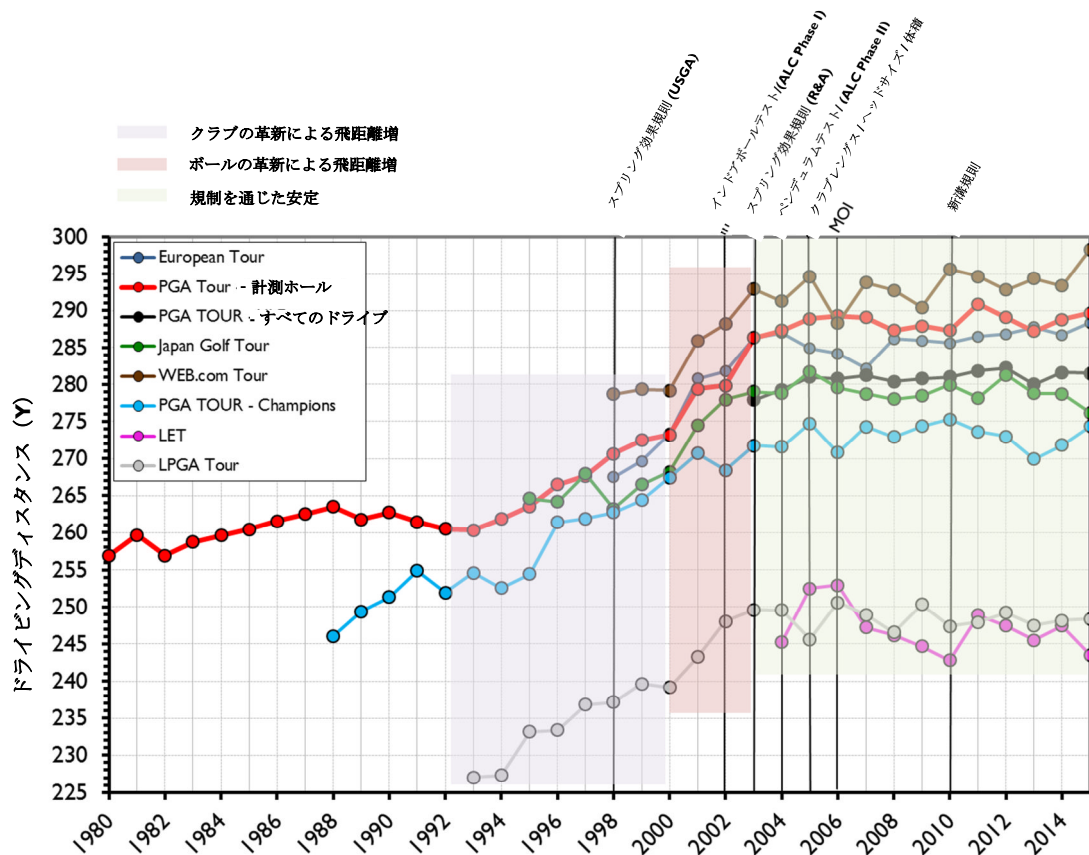


図2 重要な規則変更の節目を重ねた主要なツアーにおける平均ドライビングディスタンス

データが利用できる時間スケール（図 3）にわたり、すべてのツアーを通じて毎年およそ 0.04 ストロークというゆっくりとした下降線の「横ばい」に特徴づけられるように、平均スコアの変化は安定しているものの、R&A と USGA はこの課題が幅広いコメントと多くの対立する見解を集めてきたことにも気付いています。

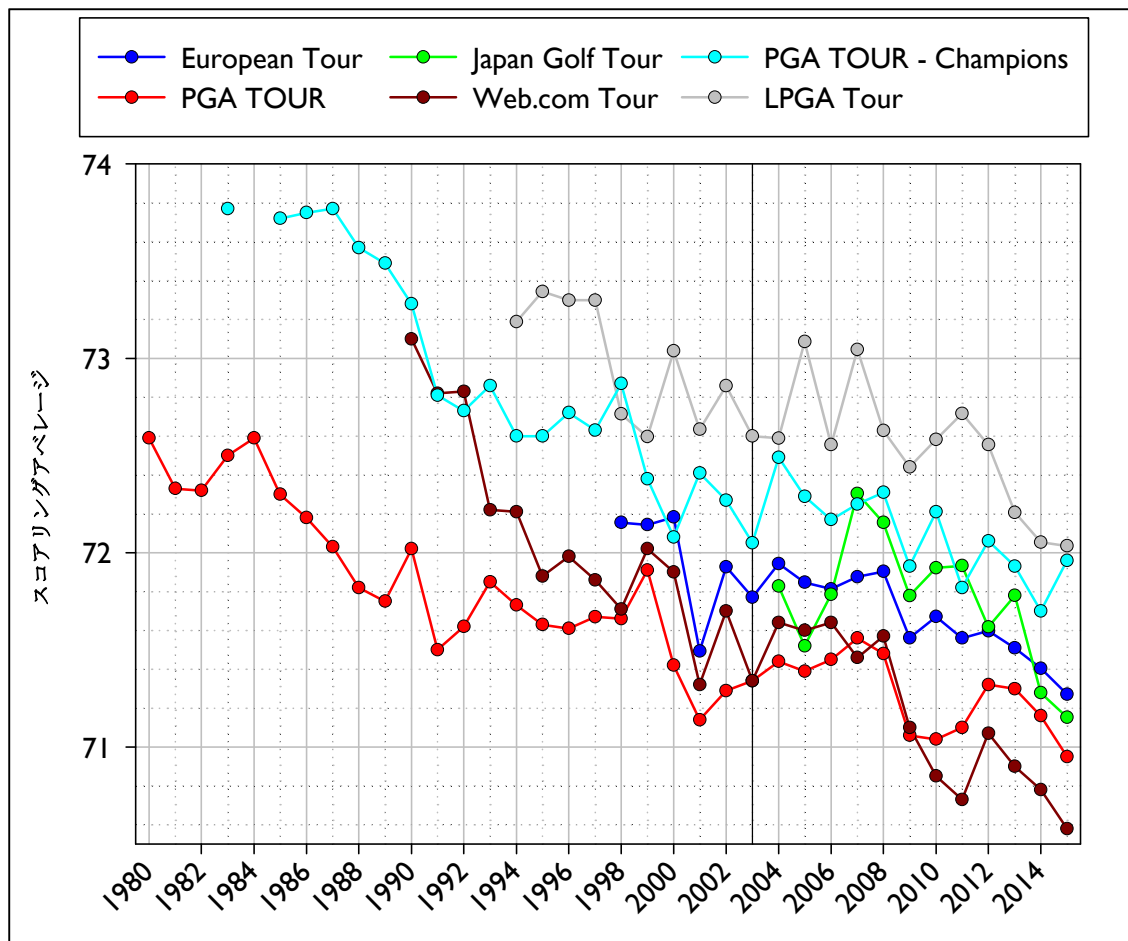


図 3. すべてのツアーの平均スコア 注：PGA ツアーと日本ゴルフツアーに用いられているデータはフィールドの成績で正規化されていない実際のスコアの平均値。

このレポートはそれぞれの 2015 年シーズン末に編集された世界の主要なゴルフツアーのドライビングディスタンスに関連するデータの見直しを含んでいます。これは利用可能な歴史的な数値と比較されます。より着目されるのは、ショットリンクデータがさらなる洞察を提供している PGA ツアーとヨーロピアンツアーに特に焦点を当てた、この後に出てくる 2003 年以降のディスタンス状況です。

ドライビングディスタンスの定義とデータ収集方法

このレポートの基盤を成すデータを定義することは重要です。ドライビングディスタンスとは、ティーインググラウンドから球が止まる地点まで計測された総距離です。その場所（フェアウェイ、ラフ、バンカー、パッティンググリーンなど）は問いません。こうしたデータは2つの方法のうちの1つを用いて主要なツアーで収集されます。

1. トーナメントオフィシャルはティーインググラウンドから増分の距離を計測し、データ収集に使われるホールのフェアウェイの両端にマークします。そうした距離マークは後にプレーヤー、キャディー、あるいは打たれたドライブの飛距離を決定するためのデータ収集をするボランティアに使用されます。
2. ホールの各ドライブの飛距離を直接計測するために GPS とレーザー計測器とのコンビネーションが用いられます。

ドライビングディスタンスデータは一般的に3つの基準を考慮して選択される2つのホール（「計測される」ドライブホール）で収集されます。

1. この2つのホールは反対の方向を向いているべきである（平均飛距離への風の影響を最小とするため）。
2. この2つのホールは望ましくはドライブの着地地点が平らであるようなホールを選ぶべきである。それが実現不可能である場合、その2つのホールは平均飛距離への傾斜の影響を最小とするために望ましくは反対の地形となるホールを選ぶことになるでしょう。
3. この2つのホールはゴルファーたちがドライバーを使って打つことを選ぶ可能性が最も高くなるホールを選ぶべきでしょう（プレーヤーたちがドライバーを使って打った飛距離を最も厳密に反映したデータとなることを担保するため）。

PGA ツアーはショットリンクシステムを2003年に導入し、そのほとんどのトーナメントで使われています。このシステムはトーナメント中のすべてのショットを計測しており、2つのホールで「計測される」伝統的なドライビングディスタンスに加え、すべてのその他のパー4のホールとパー5のホールについてもまたデータが利用可能であることを意味しています。

PGA ツアー、ウェブドットコムツアー、そしてPGA ツアーチャンピオンズツアーでは、イベントで競技に参加しているすべてのプレーヤーのすべての利用可能なショットに基づき、平均ドライビングディスタンスを計算します。しかしながら、予め定められた数の予選ラウンドをプレーしたプレーヤーたちだけがシーズン末の統計概要の発表に含まれます。近年ではシーズン末の統計概要に含まれるためには、一般的にプレーヤーはPGA ツアーでは50ラウンド、ウェブドットコムツアーでは35ラウンド、PGA ツアーチャンピオンズツアーでは35～40ラウンドをプレーする必要があります。

ヨーロッパツアーではツアーの正規メンバーのデータだけを収集し、その後10ラウンド以上をプレーしたプレーヤーたちだけをシーズン末の統計概要の発表に含めることとなります。

レディースヨーロッパツアーでは、統計カードに記入した非正規メンバーのデータも加工されていないデータの中にも含めることがあります。一般的にツアーの正規メンバーのデータだけを収集します。

LPGA はシーズンを通じて最小で10イベント、あるいは公式イベントの総数の1/3のどちらか少ない方に参加した選手だけのデータを報告します。

ドライビングディスタンス—すべての年

データが利用できる期間に主要なツアーで収集された各年の平均ドライビングディスタンスは図 4 に示されています。PGA ツアーで計測されたすべてのパー4 とパー5 の平均ドライビングディスタンスも比較のために含まれています。

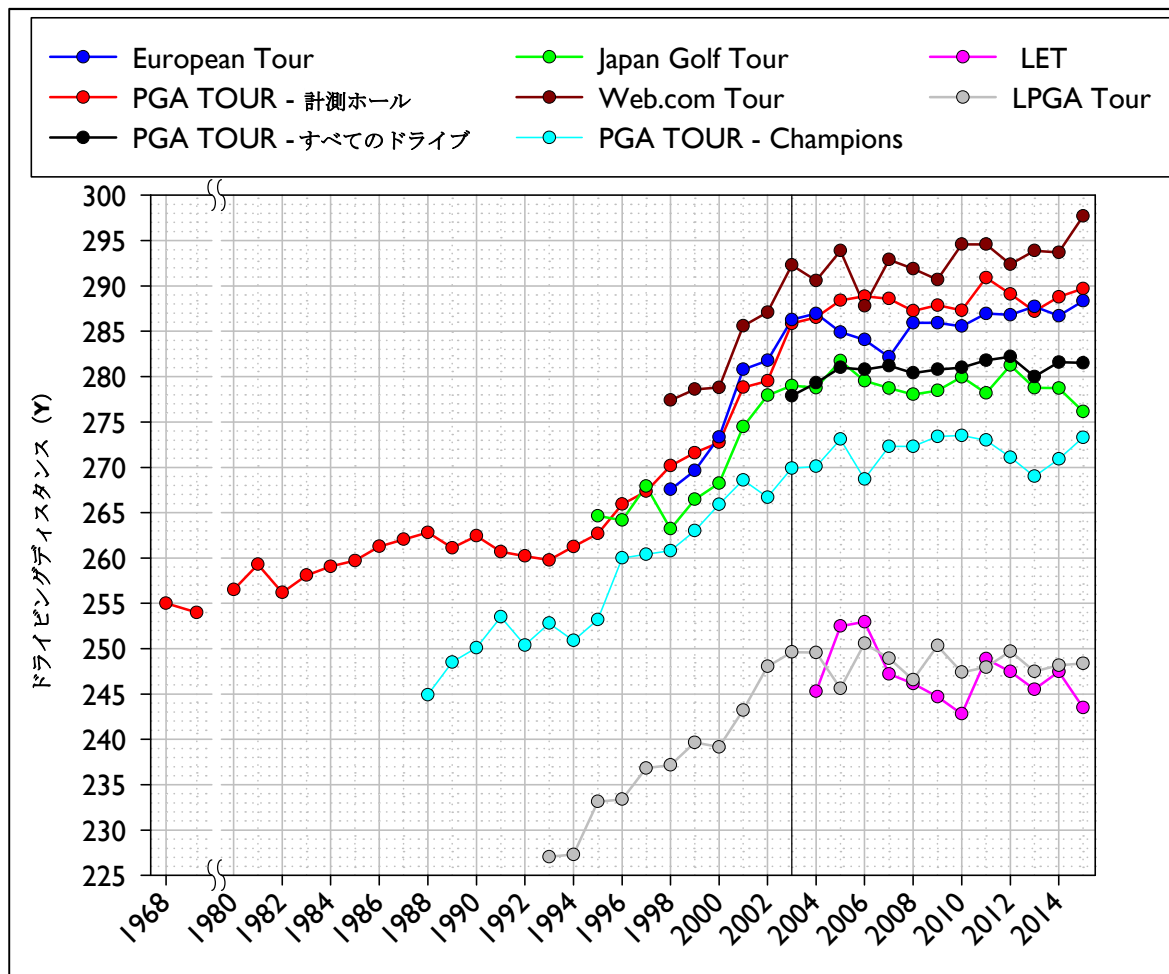


図 4. 主要なツアーの平均ドライビングディスタンス

R&A/USGA の「原則の共同声明」は 2002 年 5 月に採択されました。PGA ツアーは用具についての彼らの見解を 2003 年 7 月に発表し、用具問題について R&A/USGA と提携することを公約しました。「原則の共同声明」と「PGA ツアーの用具についての見解の要旨」の両方は参照用に添付されています。2003 年中期までにそうした見解が採択された結果として、2003 年シーズンは最も高いレベルでのドライビングディスタンスの基準シーズンとして選ばれています。

ドライビングディスタンス—2003年以降

2003年以降のすべての完全なシーズンについて主要なツアーで計測された平均ドライビングディスタンスは図5に示されています。

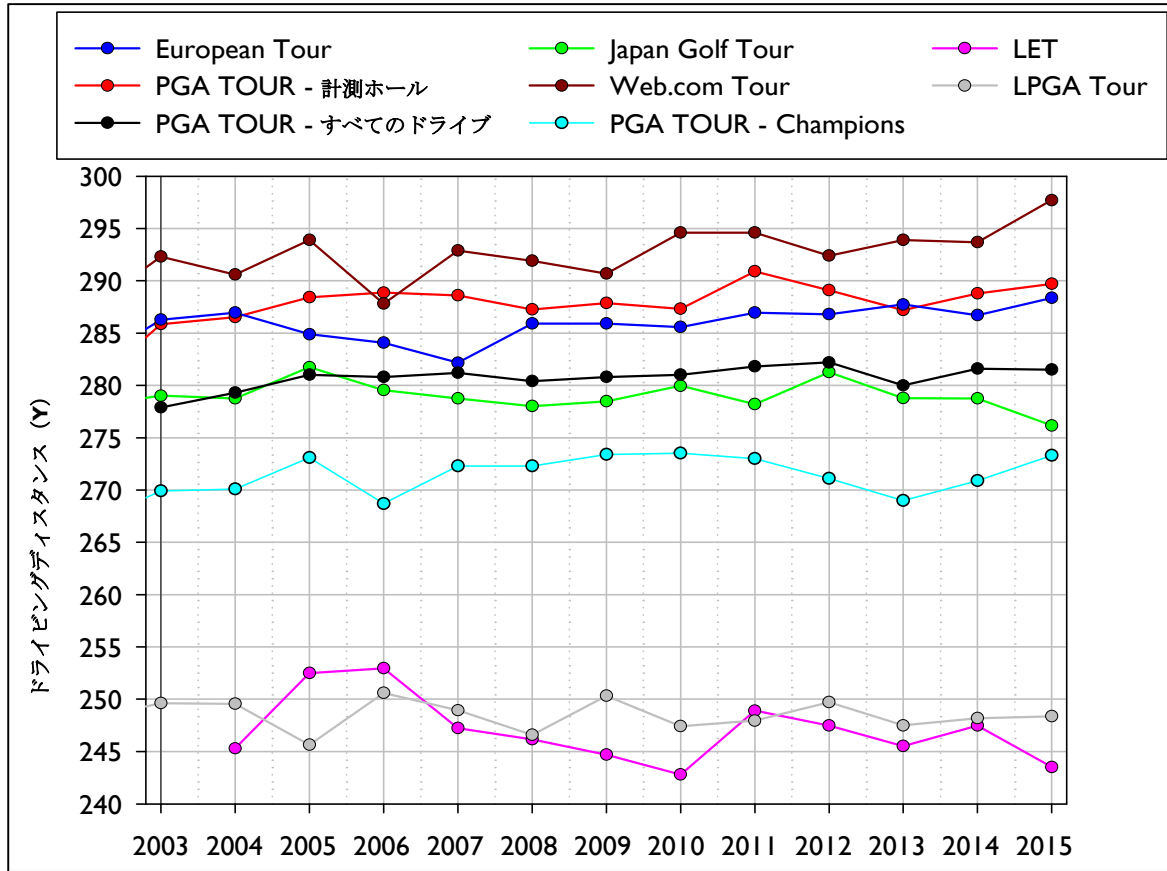


図5. 「原則の共同声明」が発表された後の最初の完全なシーズン以降の主要なツアーでの平均ドライビングディスタンス。

2015年のシーズン末の平均飛距離と2003年シーズン末の平均飛距離との比較は表1に示されています（注：レディースヨーロッパツアーについては2004年シーズンがツアーからデータが提供された最初のシーズンとなります）。データはモニタリングされたツアーの内、4つのツアーでは飛距離が増加し、その他3つのツアーでは飛距離が減じたことを示しています。データはシーズンごとの変動を示しており、2003年以降に観察された平均ドライビング飛距離の範囲はすべてのツアーにおいて2003年と2015年の間の差よりも大きいということに注目すべきです。

表1. 2015年の平均ドライビングデータと2003年シーズンとの比較。注：2004年シーズンはレディースヨーロッパツアーについて比較年として用いられています。加工されていないデータが利用できる場合、中央値の標準誤差は計算され、含まれています。

	2003	2015	Change (Yards)	Change (%)	Range (Yards since 2003)	Magnitude of range (Yards)
European Tour	286.3 ±0.15	288.4 ±0.15	+2.1	+0.7	282.2 – 288.4	6.2
PGA TOUR (Measured Holes)	285.9 ±0.12	289.7 ±0.13	+3.8	+1.3	285.9 – 290.9	5.0
PGA TOUR (All Holes)	277.9 ±0.06	281.5 ±0.06	+3.6	+1.3	277.9 – 282.2	4.3
Japan Golf Tour	279.0	276.2	-2.8	-1.0	276.2 – 281.7	5.6
Web.com Tour	292.3	297.7 ±0.19	+5.4	+1.8	287.8 – 297.7	9.9
PGA TOUR - Champions	269.9	273.3 ±0.23	+3.4	+1.3	268.7 – 273.5	4.8
LET (2004)	245.3	243.5	-1.8	-0.7	242.8 – 252.9	10.1
LPGA Tour	249.6	248.4	-1.2	-0.5	245.6 – 250.6	5.0

ドライビングディスタンス—PAG ツアーで最も飛距離の出る/最も飛距離の出ない上位 10 名、20 名、50 名と平均ドライビングディスタンスとの比較

ヨーロッパツアーと PGA ツアーのシーズン末の統計に含まれる最も飛距離の出る/最も飛距離の出ないプレイヤーの上位 10 名、20 名、50 名の平均ドライビングディスタンスは、各ツアーの平均ドライビングディスタンスと共に図 6 に示されています。各グループのプレイヤーたちのデータは、各ツアーの平均にみられる毎年の変動傾向をたどっています。

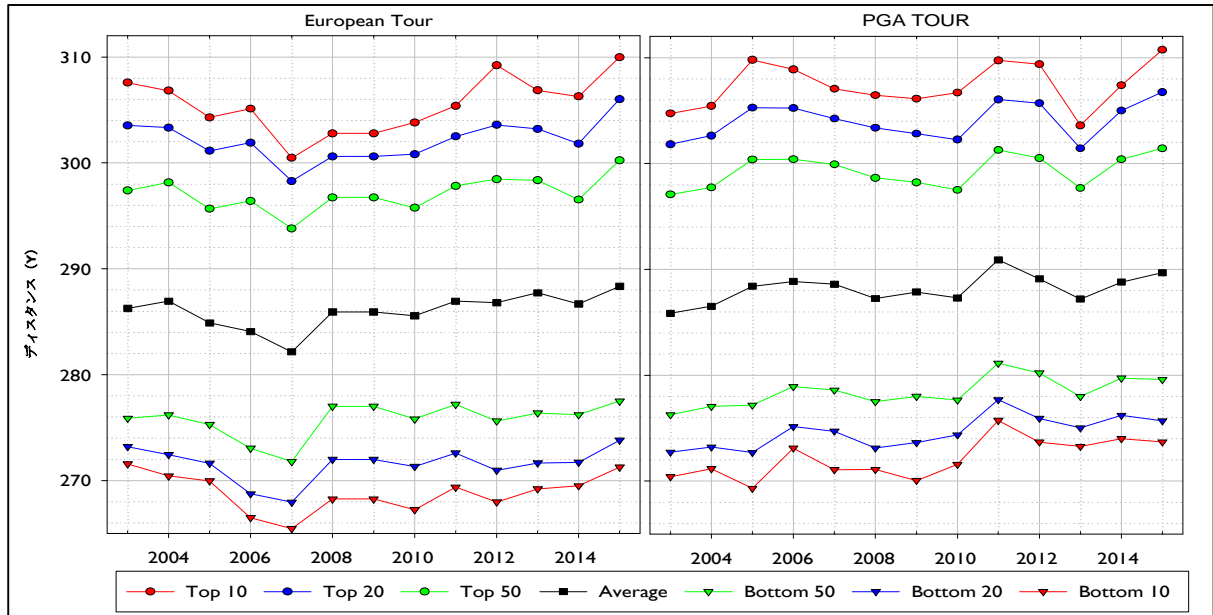


図 6. 各ツアーの平均ドライビングディスタンスとヨーロッパツアーと PGA ツアーの平均ドライビングディスタンス上位 10 名、20 名、50 名、100 名

平均に対するパーセンテージで示した飛距離の変化は図 7 に示されています。ここでも、データはシーズン間とツアー間の両方で一貫性を示しています。最も飛距離の出る上位 10 名はツアー平均よりも約 7%より遠くへ飛ばし、一方で最も飛距離の出ない下位 10 名はツアー平均よりも約 6%より飛ばない傾向があります。

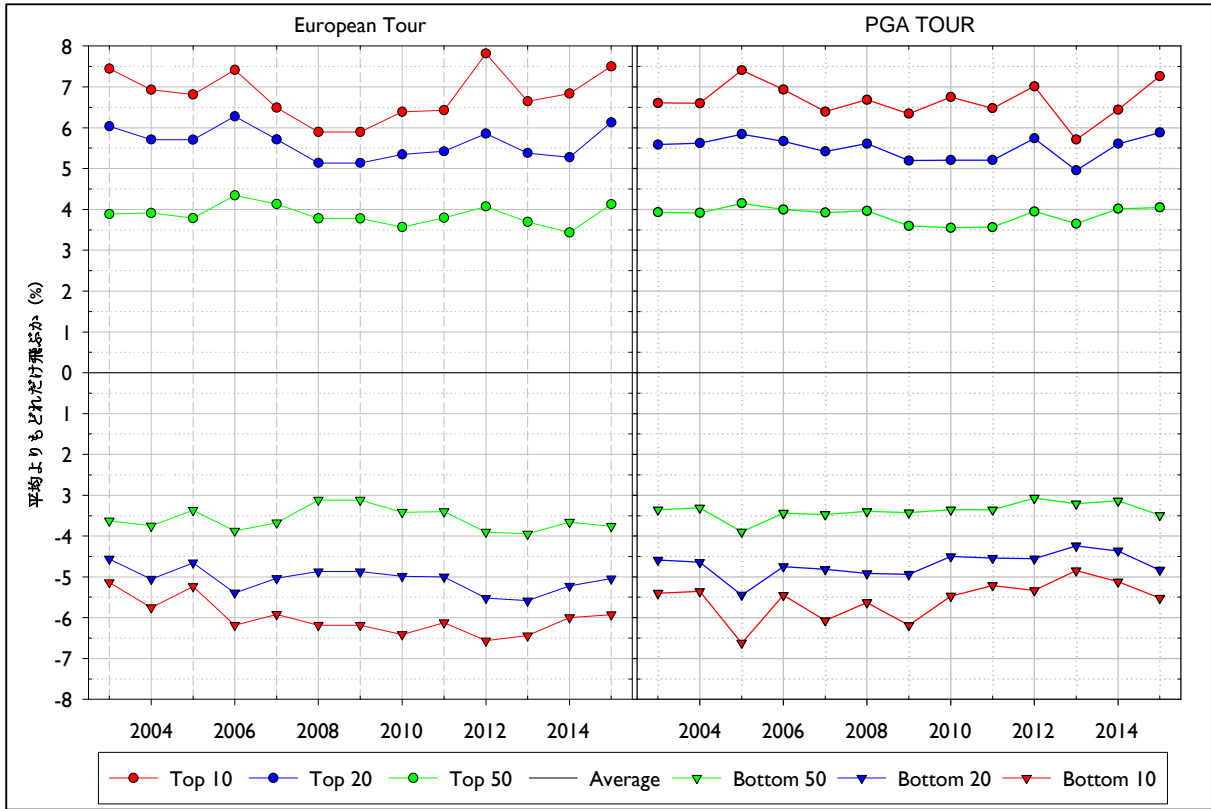


図 7. ヨーロピアンツアーと PGA ツアーの最も飛距離の出る/最も飛距離の出ない上位 10 名、20 名、50 名の平均ドライビングディスタンスと各ツアーの平均とのパーセンテージによる差の比較

ドライビングディスタンス—ヨーロッパツアーと PGA ツアーのドライビングディスタンスの分布

2003 年と 2015 年のヨーロッパツアーと PGA ツアーの「計測される」ドライビングホールでのドライブの飛距離の分布は図 8 と図 9 にそれぞれ示されています。こうした両ツアーの両年におけるデータはとても似ており、正規分布を成しています。

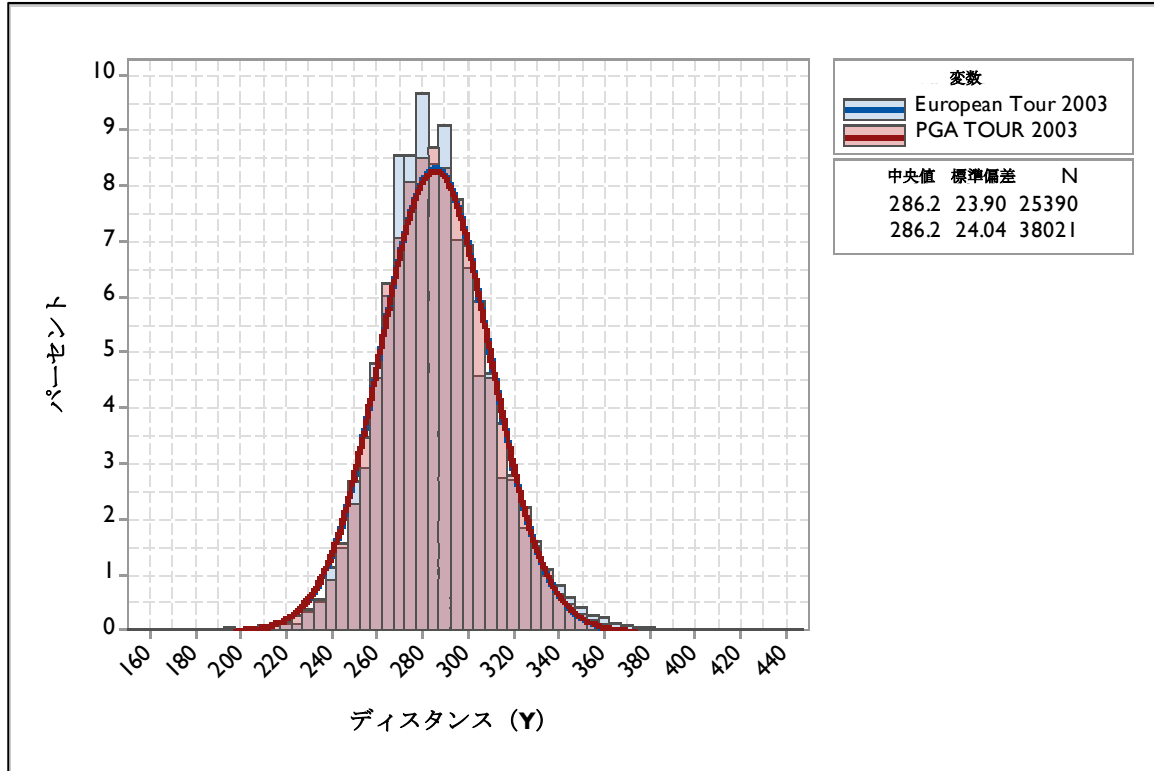


図 8. 2003 年のヨーロッパツアーと PGA ツアーの「計測される」ドライビングホールでの飛距離の分布

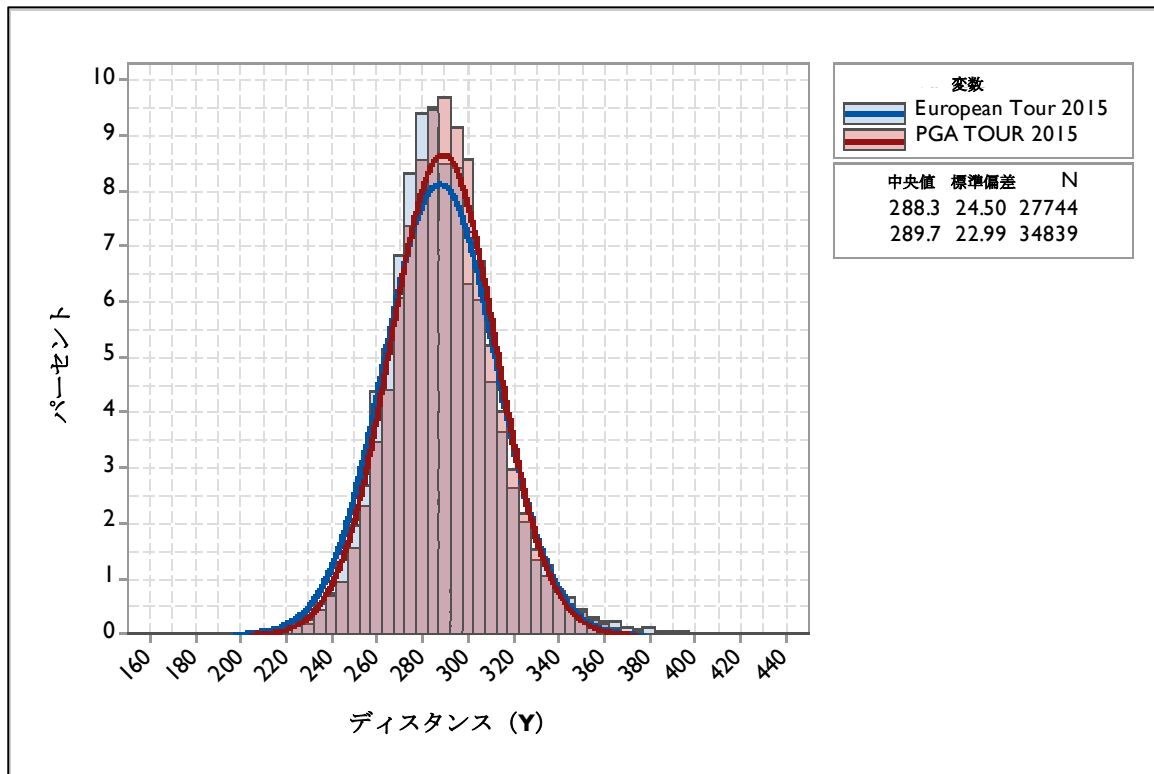


図 9. 2015 年のヨーロッパツアーと PGA ツアーの「計測される」ドライビングホールでの飛距離の分布

ヨーロッパツアーと PGA ツアーで 2003 年以降の「計測される」ドライビングホールでのドライブの飛距離は 240 ヤードから 320 ヤードの間の 20 ヤードの距離帯に収められました（追加的な帯域は 320 ヤードを超えるすべてのドライブと 240 ヤードに満たないすべてのドライブを収めるものです）。こうしたデータは図 10 及び表 2 と表 3 に示されています（ヨーロッパツアーと PGA ツアーそれぞれについて）。各帯域のショットのパーセンテージは一般的にヨーロッパツアーについては似通っている一方で、PGA ツアーでは 240y-260y と 260y-280y の間のショットのパーセンテージは少し減少（約 3%）し、280y-300y の帯域では 5%増加しています。

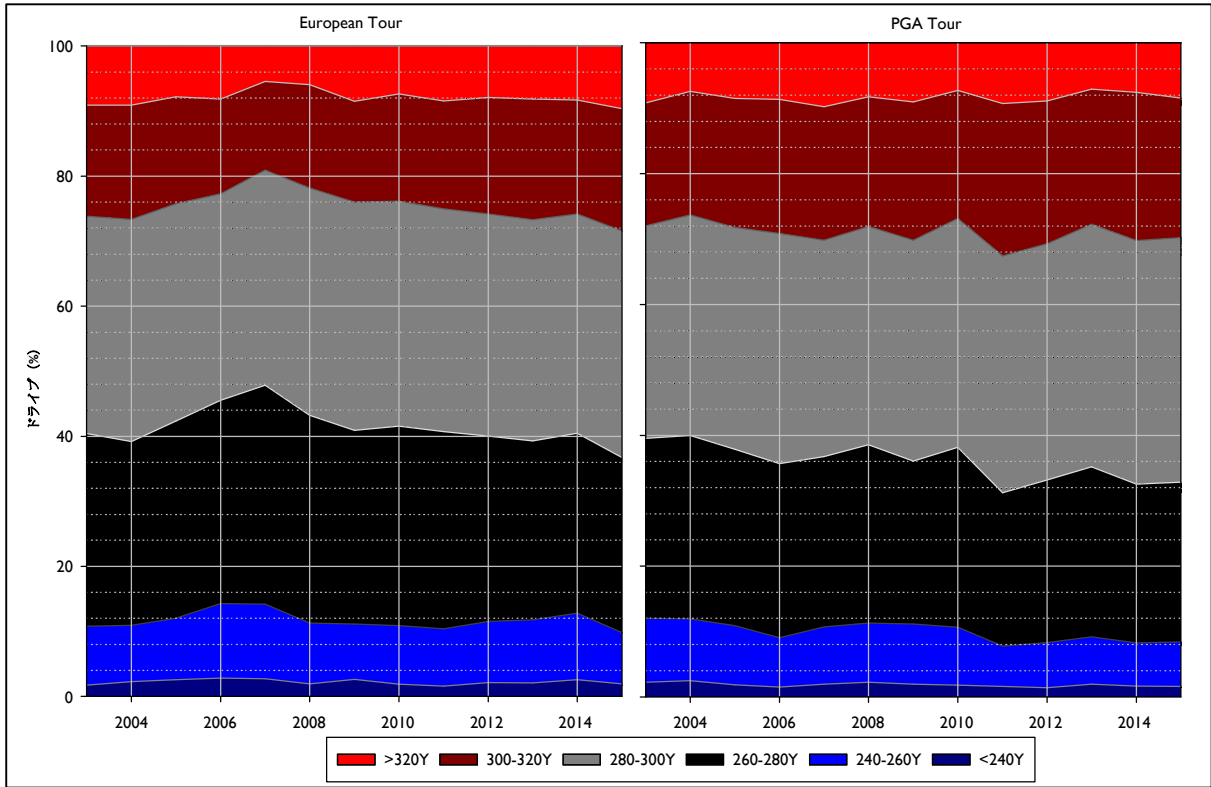


図 10. 2003 年から 2015 年までのヨーロッパツアーと PGA ツアーでの「計測される」ドライビングホールでのドライブの分布

2003-2015表 2. 2003年から2015年までのヨーロッパツアーでの「計測される」ドライビングホールでのドライブの分布

	≤240Y	240-260Y	260-280Y	280-300Y	300-320Y	≥320Y
2003	1.38%	9.06%	29.64%	33.44%	17.07%	9.07%
2004	1.62%	8.67%	28.26%	34.13%	17.59%	9.08%
2005	1.99%	9.46%	30.35%	33.41%	16.44%	7.81%
2006	2.39%	11.47%	31.26%	31.72%	14.56%	8.16%
2007	2.3%	11.44%	33.68%	33.02%	13.66%	5.45%
2008	1.43%	9.37%	31.93%	34.94%	15.88%	5.96%
2009	2.15%	8.5%	29.81%	35.08%	15.53%	8.48%
2010	1.56%	9%	30.67%	34.6%	16.48%	7.36%
2011	1.18%	8.8%	30.29%	34.24%	16.62%	8.43%
2012	1.46%	9.4%	28.51%	34.12%	17.93%	7.91%
2013	1.64%	9.69%	27.5%	34.01%	18.54%	8.17%
2014	1.99%	10.26%	27.67%	33.67%	17.57%	8.28%
2015	1.48%	7.87%	26.91%	34.86%	18.8%	9.62%

表 3. 2003年から2015年までのPGA ツアーでの「計測される」ドライビングホールでのドライブの分布

	≤240Y	240-260Y	260-280Y	280-300Y	300-320Y	≥320Y
2003	2.24%	9.76%	27.53%	32.52%	18.79%	7.77%
2004	2.48%	9.44%	28.07%	33.70%	18.91%	7.36%
2005	1.82%	9.06%	26.98%	33.92%	19.73%	8.47%
2006	1.52%	7.53%	26.63%	35.20%	20.50%	8.61%
2007	1.93%	8.75%	26.08%	33.07%	20.39%	9.78%
2008	2.23%	9.07%	27.24%	33.40%	19.81%	8.26%
2009	1.95%	9.21%	24.90%	33.77%	21.17%	8.99%
2010	1.81%	8.86%	27.49%	35.01%	19.55%	7.27%
2011	1.59%	6.18%	23.44%	36.23%	23.29%	9.28%
2012	1.41%	6.89%	24.86%	36.12%	21.83%	8.89%
2013	1.93%	7.24%	26.04%	37.08%	20.64%	7.08%
2014	1.64%	6.60%	24.31%	37.25%	22.65%	7.54%
2015	1.60%	6.83%	24.41%	37.41%	21.31%	7.63%

ドライビングディスタンスードライバー使用率

ドライバー使用の統計は 2012 年からショットリンクシステムの一部として PGA ツアーによって収集されてきました。こうしたデータは完全なショットリンクデータを収集するすべてのトーナメントで記録されました。ティーインググラウンドでのクラブ使用（ドライバーを使ったかどうか）を確実に確認できたのは 35,000 ショットの内の 85%であり、2015 年の PGA ツアーの「計測された」ドライビングディスタンス統計を構成しています。すべてのドライブ（パー3を除く）の平均ドライバー使用率を考えたとき、2015 年には 210,000 ショットの内、90%を超える確率でティーから使用されるクラブを確実に確認しました。同様のドライバー使用率の統計をヨーロッパツアーのドライビングホールでも収集してきました。そうした両ツアーからのデータは表 4 に示されています。

2015 年の PGA ツアーでは「計測された」ドライビングホール（クラブを確実に確認した場合）において、94%を超えるドライブがドライバーで打たれたことが見受けられます。ヨーロッパツアーでの同様の値は 98%近くです。こうしたとても高い値は、ツアーによって示される平均ドライビングディスタンスはプレーヤーたちがドライバーを使ったときに達成される飛距離の良い指標であることを示しています。PGA ツアーの「すべて」のドライブを考慮した場合、72%近くのティーショットはドライバーで打たれています（クラブを確実に確認した場合）。ドライバーだけを使って打たれたショットだけを考慮した平均ドライビングディスタンスはドライビングホールであってもなくても似たようなものであるということは興味深く、注目に値するでしょう。

表 4. ヨーロッパツアーと PGA ツアーのクラブ使用率

		2012	2013	2014	2015
PGA TOUR 「計測された」ドライビングホール	ドライバー使用 (%)	93.3	93.6	94.2	94.2
	飛距離 - すべてのドライブ (Y)	290.2	288.1	289.3	289.8
	飛距離 - ドライバー (Y)	290.9	289.2	290.0	290.6
PGA TOUR ドライビングホール以外	ドライバー使用 (%)	67.8	67.0	67.0	67.9
	飛距離 - すべてのドライブ (Y)	280.9	278.9	280.2	280.3
	飛距離 - ドライバー (Y)	289.5	287.5	288.8	288.8
PGA TOUR 「すべて」のホール	ドライバー使用 (%)	71.7	71.0	71.2	71.9
	飛距離 - すべてのドライブ (Y)	282.3	280.3	281.6	281.8
	飛距離 - ドライバー (Y)	289.7	287.8	289.1	289.2
European Tour ドライビングホール	ドライバー使用 (%)	96.2	96.7	96.0	97.7

ドライビングディスタンス—PGA ツアーでの飛距離ランキングによるドライバー使用率

PGA ツアーの 2015 年ドライビングディスタンスのランキングに含まれる対象となった個々のプレーヤーたちのドライバー使用率のパーセンテージ（ドライビングホールとすべてのパー4とパー5の両方）は図 II に示されています。大多数のプレーヤーたちは「計測された」ドライビングホールでのティーショットのドライバー使用率は 90%を超えています。2015 年にそうしたホールでのドライバー使用率が 90%未満だったのは 26 名のプレーヤー（約 14%）であり、ドライビングホールでドライバーを使うのが 80%未満であったのは 7 名のプレーヤー（全体の 4%）だけでした。

すべてのパー4とパー5でのドライバー使用率のパーセンテージを考慮したときに、ドライバー使用率とドライビングディスタンスのランキングにかなり強い相関があることは驚きに値しません。

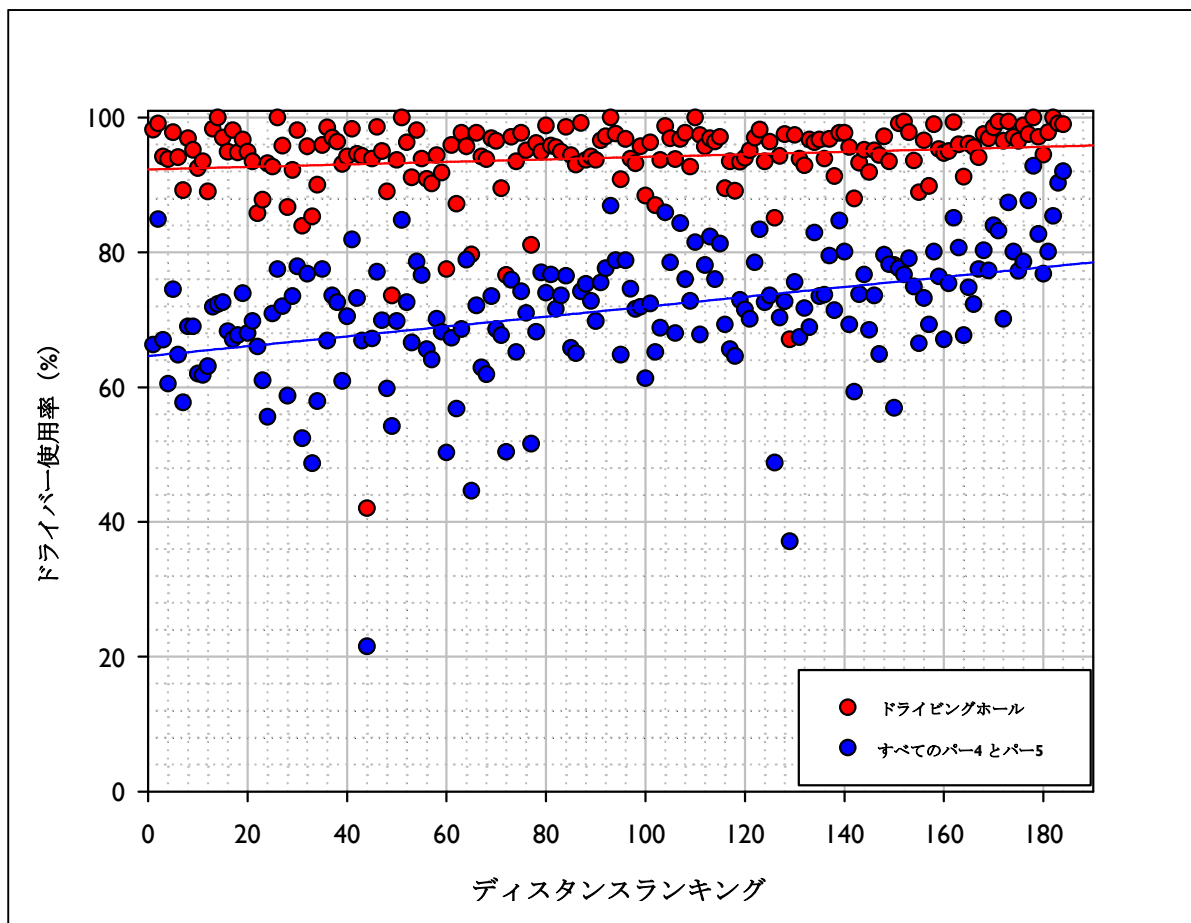


図 II. 2015 年の PGA ツアーのドライビングディスタンスのパーセンテージと飛距離ランキング

ドライビングディスタンス—PGA ツアーにおける打ち出し条件

PGA ツアーは 2007 年からショットリンクシステムの一部として、トラックマンレーダーシステムを用いてトーナメントでの打ち出しデータを計測しています。一般的に、データは各トーナメントのパー4あるいはパー5の1つか2つのホールで収集されますが、そうしたホールは必ずしも「計測される」ドライビングホールではありません（2015年に報告されたレーダーデータの55ホールの内、19ホールだけが「計測される」ドライビングホールでした）。2012年にティーショットのクラブ選択の記録が始まってから、こうした打ち出しデータはドライバーで打たれたショットのみ報告されています。実際に、そのことで毎年約500-600のショット（全体は12,000-16,000ショット）が除外される結果となり、したがって、平均打ち出し条件の値にはほんの少しの影響しかありません。

年ごとの平均打ち出し条件は表5に示されています。平均クラブヘッド速度は2007年から2015年で0.8 mph増加しており、ボール速度は2.3 mph増加していることが見受けられます。2015年の打ち出し角度は2007年の値と同じですが、スピンは2015年では215 rpm少なくなっています。また、標準総合距離の打ち出し条件のセットアップは10°と2520 rpmでクラブヘッド速度は120 mphであることは注目に値します。

表 5. PGA ツアーで計測された打ち出し条件

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
クラブヘッド 速度 (mph)	112.4	112.3	111.7	112.6	112.8	113.0	113.2	113.0	113.2
90 th パーセント クラブヘッド速度 (mph)	118.5	118.3	117.4	118.5	118.6	118.8	119.1	118.8	119.2
ボール速度 (mph)	165.4	165.2	165.2	166.2	166.8	167.2	167.4	167.2	167.7
打ち出し角度 (°)	10.8	11.3	11.3	10.7	10.8	10.9	10.9	11.0	10.8
スピン (RPM)	2814	2670	2670	2714	2667	2686	2639	2619	2599

付録

R&A/USGA 原則の共同声明

ロイヤル・アンド・エインシエント・ゴルフ・クラブ・オブ・セントアンドリュース (R&A) と全米ゴルフ協会 (USGA) は、用具の規則を含むゴルフ規則の統轄機関として、進化する用具技術がゲームのプレーに与える影響を詳細に監視し続けてきました。R&A と USGA は、この主題が幅広い意見と多くの対立する見解を集めてきたことも認識しています。技術の進化がもたらすゴルフ用具の進歩を予見することは不可能であるということは歴史が証明してきました。ゴルフの魅力を維持するためには、そうした技術の進歩が明確で広く受け入れられている一連の原則に照らして判断されることが非常に重要なのです。

この声明の目的は、R&A と USGA の共同見解を、両団体の行動を導く基本原則と基本方針の枠組みとともに提示することです。歴史的背景において、ゴルフゲームは、ほぼ6世紀にわたり、プレーの能力と楽しみを改善しようとしてきたゴルファーたちが利用できるクラブとボールの漸進的な発達を見守ってきました。

一般にそうした進歩を歓迎するものの、R&A と USGA は用具規則を考えるとときには慎重な立場を崩しません。規則の目的はゴルフの良き伝統を守り、プレーヤーの技量よりも用具の技術的進歩に過度に頼りすぎることの抑制し、プレーヤーの技量がゲームを通しての主要な成功の要素であることを確保することです。

R&A と USGA は、技量に関わらずこのゲームのすべてのプレーヤーに対してひとつの規則を保持することがゴルフの最大の強みであると考え続けます。R&A と USGA は、エリート競技に対して恒久的な別の規則をもつ可能性については望ましくないと考えており、高い技術を有するプレーヤーたちに対して別の用具規則を作る計画は現在ありません。

高い技術を有するプレーヤーたちの大部分によって現在使用されているゴルフボールは、1976年から規則の一部となっている初速と総合距離の性能の上限に達しています。統轄団体はゴルフボールが、高い技術を有するゴルファーたちによって打られたときに、それ自体で今現在よりも著しく遠くに行くべきではないと考えます。現状において、R&A と USGA はゴルフボールの仕様に関する規則がテスト方法を近代化する以外で変更されるというのを支持しておりません。

しかしながら、R&A と USGA は最高レベルでのさらなる飛距離の著しい増加は望ましくないと考えます。そうした飛距離の増加が、進化する用具技術、プレーヤーの競技意識の向上、プレーヤー指導の向上、ゴルフコース状態の向上によって生じているのか、あるいはそうした要因あるいは別の要因の組み合わせにより生じているのかに関わらず、ゲームの「チャレンジ」という要素を著しく減じる影響を及ぼすことでしょう。その結果として起こるコースの拡張や、難易度を上げるといったことは費用がかかるか不可能であり、ますます重要性を増している環境や生態系の問題に悪影響を及ぼすことでしょう。プレーのペースは遅くなり、プレー費も高くなるでしょう。

R&A と USGA は飛距離増加の原因となっているすべての要因を定期的に考察していきます。飛距離の著しい増加が見られる状況が発生した場合、R&A と USGA はゲームを保護するための方法を求めることが直ちに必要であると感じるでしょう。

規則や時折必要となる関連する手続きへの将来的な修正を決定する場合、R&A と USGA は、告知と意見聴取の手続きの利用を含み、関係者と相談するというそれぞれの方針を継続し、そこで表明された見解を考慮に入れることとなります。R&A と USGA との間の緊密な連携を通じて世界的な用具規則の統一を達成し、それを維持していくことは最優先事項です。

R&A と USGA はこの声明で表明された原則に反する可能性のある新しい製品が開発され、市場に出るケースが増加していることを懸念しています。こうした製品が統轄団体との事前の相談なしに販売されることは適切な用具規則を制定する際にかかなりの困難を生じさせ、製造業者と規則制定者との間に望ましくない対立を生じさせることにもなりかねません。R&A と USGA は新しい製品の認可のための手続きを改善する提案を行うつもりです。

R&A と USGA はこの文書で述べられた原則は慎重に適用されたときにゴルフゲームの最善の利益となると考えます。

2003年7月1日 PGA ツアーの用具についての見解の概要**一般的な哲学**

テクノロジーへの適切な制限はプロフェッショナルレベルでのゴルフゲームの本来の価値と人気を維持するために必要不可欠である。

PAG ツアーは R&A/USGA と提携することを公約：

- テクノロジー分野で必要な研究を行う
- 適切な用具規則を制定する
- 講じた活動と達成した結果をメディアや一般の人たちに伝達する
- 用具規則が私たちの意図した目標を達成したかどうか監視する
- 適切であれば、用具規則を修正する、および/または、新しい規則を制定する

スプリング効果に関する規則案

- ツアーは新しい特性時間（CT）の計測方法とペンデュラムテスターを支持する。
- PGA ツアーでのペンデュラムテスターの施行を 2004年1月1日までに行わなければならない。
- もし USGA が 2004年1月1日までにペンデュラムテスターを施行できない場合、ツアーは PGA ツアー競技での CT 計測方法とペンデュラムテスターの採用を考慮することになる。

ゴルフボールに関する規則案

- ツアーは USGA によって現在提案されているインドアテストレンジ（ITR）の第2段階を支持する。
- ツアーは 2004年6月1日までに必ず ITR 第2段階を施行することを強く要請する。

Monitoring, Communications and Research 監視、コミュニケーション、研究**I. データ収集と意見の観察**

- ツアーは関連するデータ（ゴルフボールの飛距離、クラブ選択、スイング速度を含むがこれらに限定されない）を収集することについて R&A/USGA とパートナー関係を築く。
- ツアーはプロフェッショナルゴルフにおけるテクノロジーの影響に関するメディアや一般の意見を観察することについて R&A/USGA とパートナー関係を築く。

II. コミュニケーション

- ツアーは用具テスト、用具規則、そしてそうした規則がプレーヤーのパフォーマンスに与える影響について、メディア、ファンとコミュニケーションを行う様々な方法を開発することについて R&A/USGA とパートナー関係を築く。

III. さらなる規則修正

- ツアーは、ゴルフボールの飛距離が著しく増加し続ける、あるいはテクノロジーによってこのゲームについての一般的な見解が悪い方向に影響される（つまり、優れたパフォーマンスのために、プレーヤーの技量やアスレチシズムよりも用具テクノロジーの比重が高くなる）場合、さらなる規則の修正に関して R&A/USGA とパートナー関係を築く。